

# 青森県経済統計報告

平成 24 年 11 月 2 日  
企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口(平成 24 年 10 月 1 日現在) ..... 1

県人口	1,349,968 人(対前月 555 人減少)
自然動態	445 人減少(出生者数 736 人、死亡者数 1,181 人)
社会動態	110 人減少(転入者数 1,382 人、転出者数 1,492 人)

## 2 本県の経済動向(平成 24 年 8 月・9 月の経済指標を中心として)

### (1) 経済概況

本県経済は、生産面が横ばいの動きとなっているほか、消費面が堅調に推移しているものの一部で弱い動きがみられる。東日本大震災の影響は総じて薄まりつつある。

### (2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 24 年 8 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 106.3 で、前月比 9.4%の上昇となり、4 ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 105.7 で、前年同月比 3.9%の上昇となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 24 年 8 月の定期給与は 218,014 円で前年同月比 1.2%減となった。総実労働時間は 155.5 時間で前年同月比 1.7%減、所定外労働時間は 9.6 時間で前年同月比 3.5%減となった。平成 24 年 9 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.60 倍で、前月比 0.01 ポイント上回った。 ... 3
- (2-3) 物価 平成 24 年 9 月の青森市消費者物価指数(平成 22 年=100)は、総合指数が 98.8 となり、前月比 0.4%の上昇、前年同月比 1.1%の下落となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 ・平成 24 年 8 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 162 億 2,400 万円 で前年同月比 1.0%増となり、6 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 1.4%減となり、3 ヶ月連続で前年同月を下回った。  
・平成 24 年 9 月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比 8.1%減となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 3.1%増となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回った。  
・平成 24 年 9 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 4,022 台で、前年同月比 0.7%減となり、13 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成 24 年 9 月の新設住宅着工戸数は 630 戸で、前年同月比 65.8%増となり、3 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 6
- (2-6) 電力 平成 24 年 9 月の大口電力使用量は 2 億 2894 万 kWh で、前年同月比 16.9% 使用量増となり、8 ヶ月連続で前年同月を上回った。 ... 6

### (3) 景気動向指数 C I (平成 24 年 8 月分) ..... 7

先行指数	117.5 (前月を 2.6 ポイント下回り、2 か月ぶりに下降した)
一致指数	112.0 (前月を 4.8 ポイント上回り、4 か月ぶりに上昇した)
遅行指数	99.3 (前月を 2.3 ポイント下回り、2 か月ぶりに下降した)

### (4) 青森県景気ウォッチャー調査(平成 24 年 10 月期) ..... 8

- 3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I ... 44.0 (前期比 6.3 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る)
- 3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I ... 47.3 (前期比 3.2 ポイント減、4 期ぶりに 50 を下回る)

# 1 青森県の推計人口（平成24年10月1日現在）

## 【概況】

平成24年10月1日現在の本県推計人口は、1,349,968人で、前月に比べ555人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が736人、死亡者数が1,181人で、445人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,382人、転出者数が1,492人で、110人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数	増減数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
23.10.1	1,363,038	640,662	722,376	-0.041%	-553	-443	781	1,224	-110	1,474	1,584
23.11.1	1,362,455	640,365	722,090	-0.043%	-583	-618	775	1,393	35	1,479	1,444
23.12.1	1,361,835	640,067	721,768	-0.046%	-620	-572	793	1,365	-48	1,154	1,202
24.1.1	1,361,053	639,658	721,395	-0.057%	-782	-726	732	1,458	-56	1,035	1,091
24.2.1	1,360,012	639,170	720,842	-0.076%	-1,041	-805	816	1,621	-236	963	1,199
24.3.1	1,358,799	638,575	720,224	-0.089%	-1,213	-893	709	1,602	-320	1,012	1,332
24.4.1	1,353,174	635,460	717,714	-0.414%	-5,625	-756	742	1,498	-4,869	3,822	8,691
24.5.1	1,352,715	635,268	717,447	-0.034%	-459	-661	716	1,377	202	3,907	3,705
24.6.1	1,352,007	634,904	717,103	-0.052%	-708	-674	832	1,506	-34	1,488	1,522
24.7.1	1,351,462	634,663	716,799	-0.040%	-545	-579	692	1,271	34	1,270	1,236
24.8.1	1,350,937	634,474	716,463	-0.039%	-525	-479	827	1,306	-46	1,829	1,875
24.9.1	1,350,523	634,348	716,175	-0.031%	-414	-548	823	1,371	134	1,931	1,797
24.10.1	1,349,968	634,195	715,773	-0.041%	-555	-445	736	1,181	-110	1,382	1,492

9月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平14.9	15.9	16.9	17.9	18.9	19.9	20.9	21.9	22.9	23.9	24.9
自然動態	出生者数	1,046	1,040	986	942	940	765	905	807	810	781	736
	死亡者数	1,060	1,139	1,106	1,091	1,086	1,042	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181
	自然増減数	-14	-99	-120	-149	-146	-277	-262	-412	-487	-443	-445
社会動態	県外からの転入者数	1,758	1,842	1,618	1,738	1,590	1,710	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382
	県外への転出者数	1,935	2,082	2,012	2,131	1,872	2,020	1,828	1,678	1,493	1,584	1,492
	社会増減数	-177	-240	-394	-393	-282	-310	-140	-140	78	-110	-110
増減数計		-191	-339	-514	-542	-428	-587	-402	-552	-409	-553	-555

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

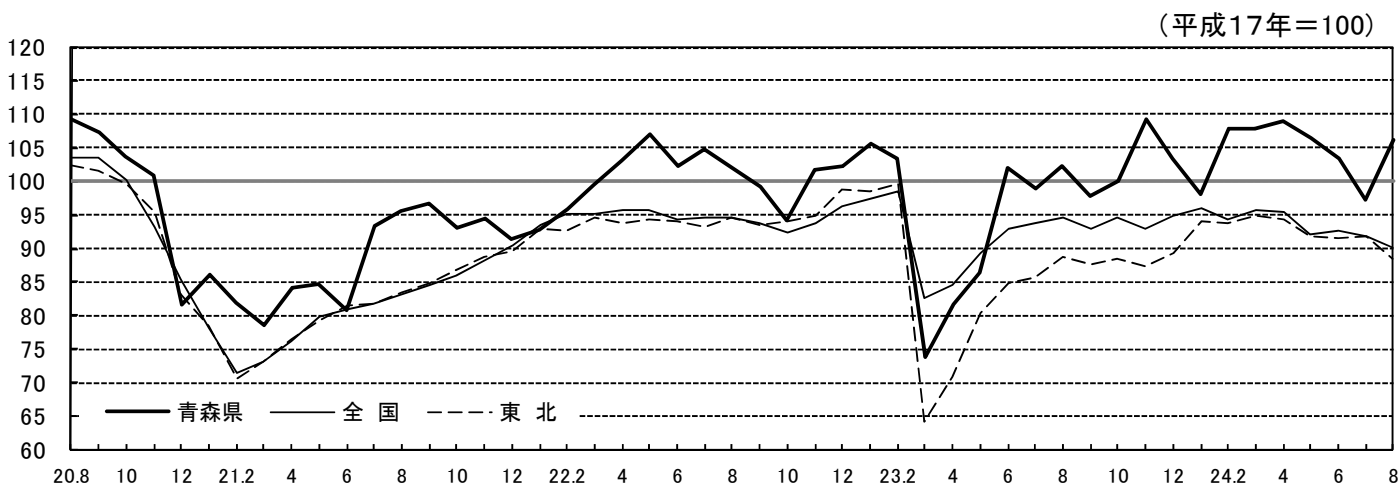
### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 製造業の生産

平成24年8月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が106.3で、前月比9.4%の上昇となり、4ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は105.7で、前年同月比3.9%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、化学工業、一般機械工業などが上昇に寄与した一方、電気機械工業、非鉄金属工業、その他製品工業などが低下し、鉱工業全体では9.4%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

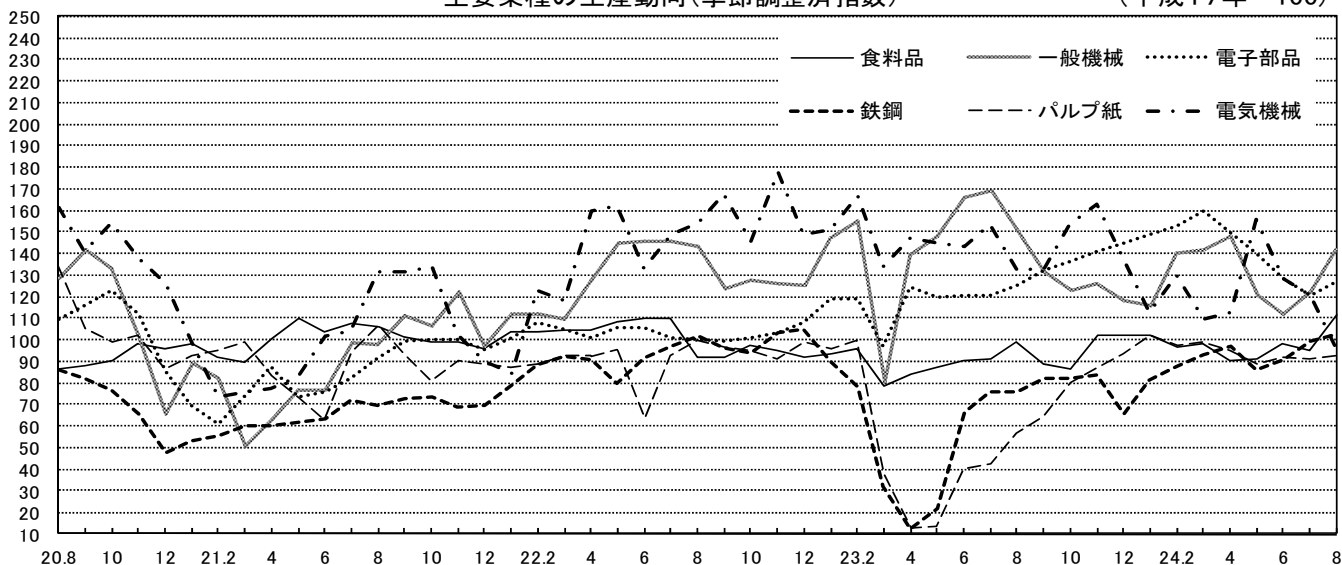


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 9.4%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	16.8	39.4	電気機械工業	-20.4	-14.9
化学工業	136.3	31.7	非鉄金属工業	-8.6	-1.9
一般機械工業	16.3	27.3	その他製品工業	-18.0	-1.4
電子部品・デバイス工業	5.1	7.4	輸送機械工業	-17.8	-1.3
金属製品工業	13.4	7.3	窯業・土石製品工業	-2.6	-0.9

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



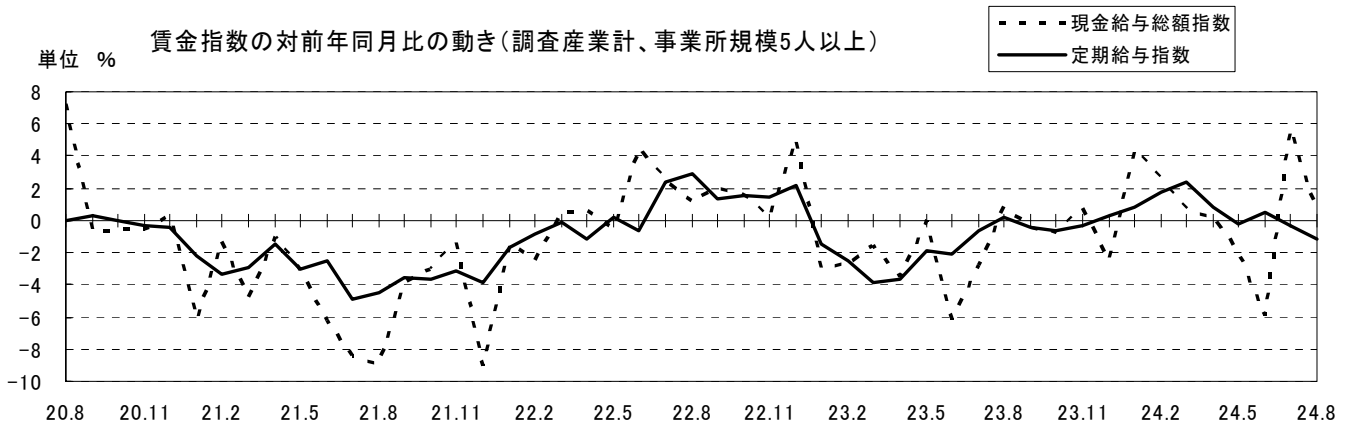
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成24年8月の定期給与は218,014円で定期給与指数(平成22年=100)では99.0となり、前年同月比1.2%減(現金給与総額235,155円、現金給与総額指数91.2、前年同月比0.4%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は86.0となった。

総実労働時間は155.5時間で、総実労働時間指数は100.6となり、前年同月比1.7%減となった。このうち、所定外労働時間は9.6時間で、所定外労働時間指数は105.5となり、前年同月比3.5%減となった。

平成24年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.60倍で、前月比0.01ポイント上回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

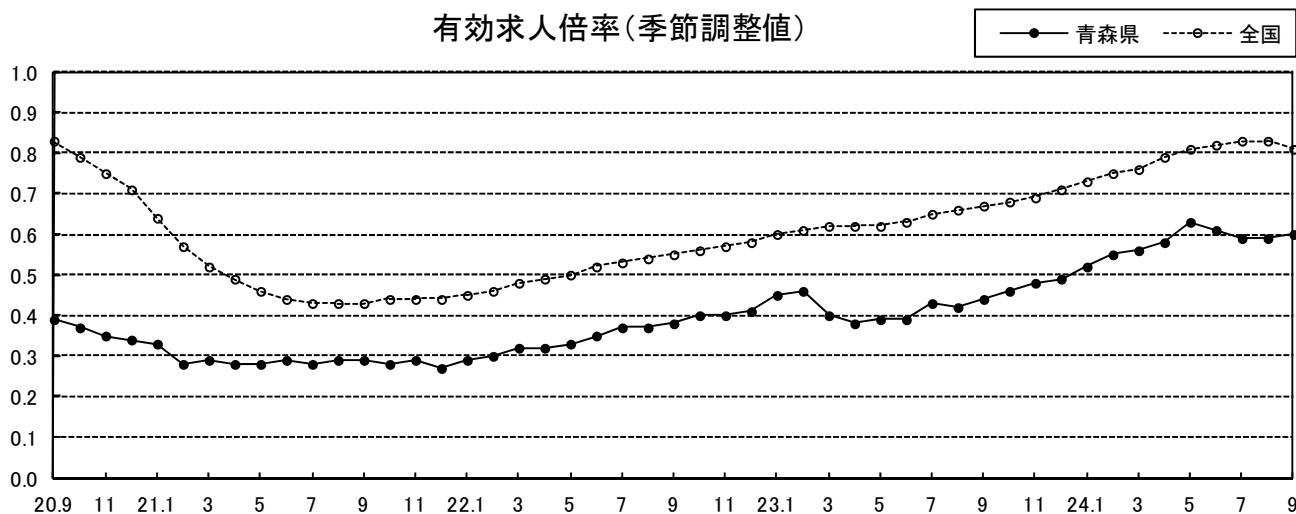
	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	235,155 円	273,565 円	91.2	86.4	0.4 %	0.0 %
定期給与	218,014 円	260,328 円	99.0	99.0	-1.2 %	-0.3 %
特別給与	17,141 円	13,237 円	—	—	—	5.9 %
総実労働時間	155.5 時間	144.2 時間	100.6	98.4	-1.7 %	-0.9 %
所定内労働時間	145.9 時間	134.3 時間	100.3	98.5	-1.4 %	-1.0 %
所定外労働時間	9.6 時間	9.9 時間	105.5	97.1	-3.5 %	0.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

### (2-3) 物価

平成24年9月の青森市消費者物価指数（平成22年=100）は、総合指数が98.8となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ1.1%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.2となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は97.8となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.4%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、被服及び履物、交通・通信などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.1%の下落となった内訳を寄与度で見ると、食料、教養娯楽などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

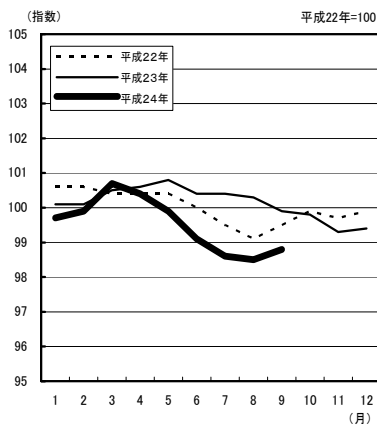


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

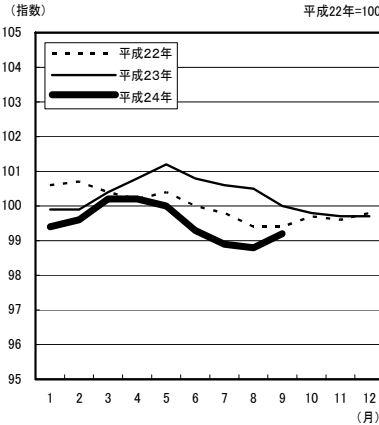
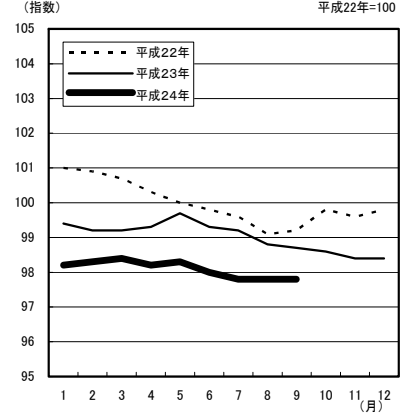


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



### 10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	98.8	99.2	99.0	97.8	96.7	91.2	98.1	108.1	92.8	101.4	99.4	101.6	96.7	91.9	103.9
前月比(%)	0.4	0.3	0.4	0.1	0.4	0.9	0.0	1.0	▲0.1	5.2	0.4	0.9	0.0	▲1.7	0.4
寄与度	—	0.34	0.37	0.04	0.10	0.04	0.00	0.10	0.00	0.18	0.02	0.12	0.00	▲0.16	0.02
前年同月比(%)	▲1.1	▲0.9	▲1.0	▲0.9	▲2.3	▲6.5	▲1.2	0.7	▲2.1	0.3	▲0.1	0.0	0.0	▲3.0	0.3
寄与度	—	▲0.83	▲0.88	▲0.57	▲0.60	▲0.28	▲0.25	0.07	▲0.07	0.01	0.00	0.00	0.00	▲0.29	0.02

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

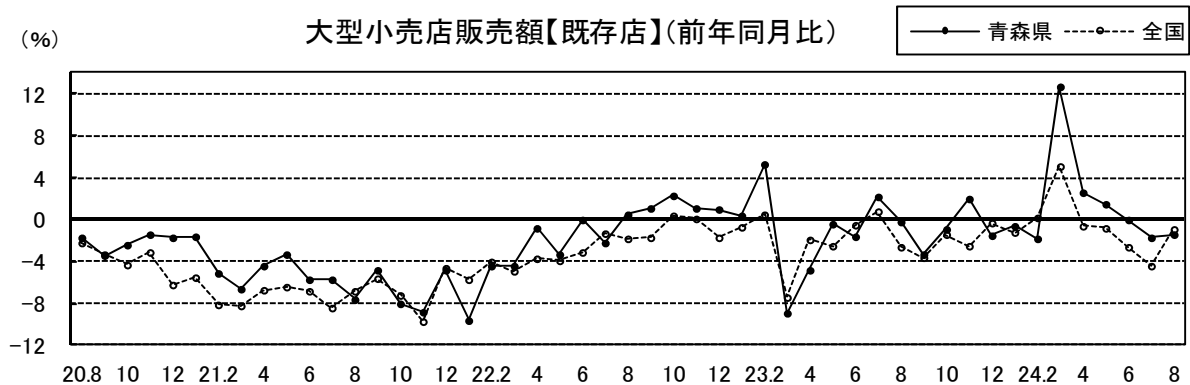
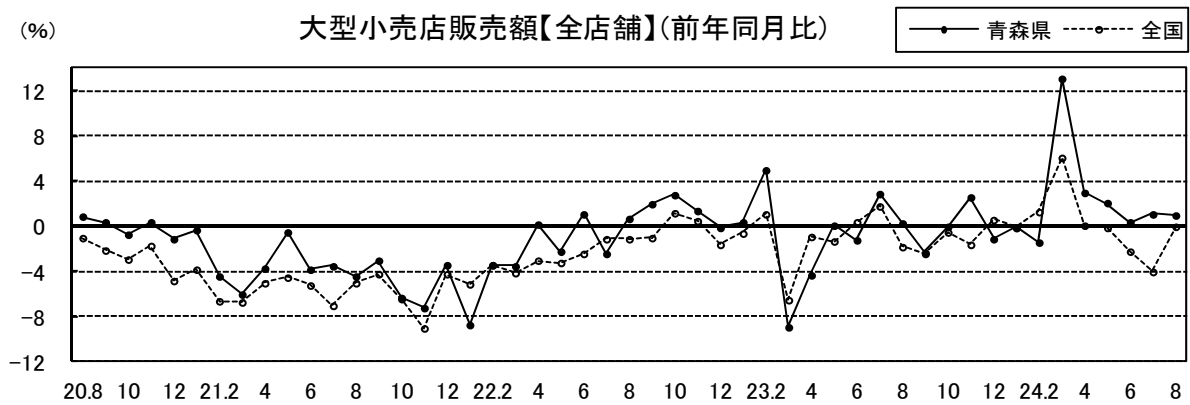
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

## (2-4) 個人消費

平成24年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが162億2,400万円で前年同月比1.0%増となり、6ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは1.4%減となり、3ヶ月連続で前年同月を下回った。飲食料品、衣料品などが低調であったことによる。

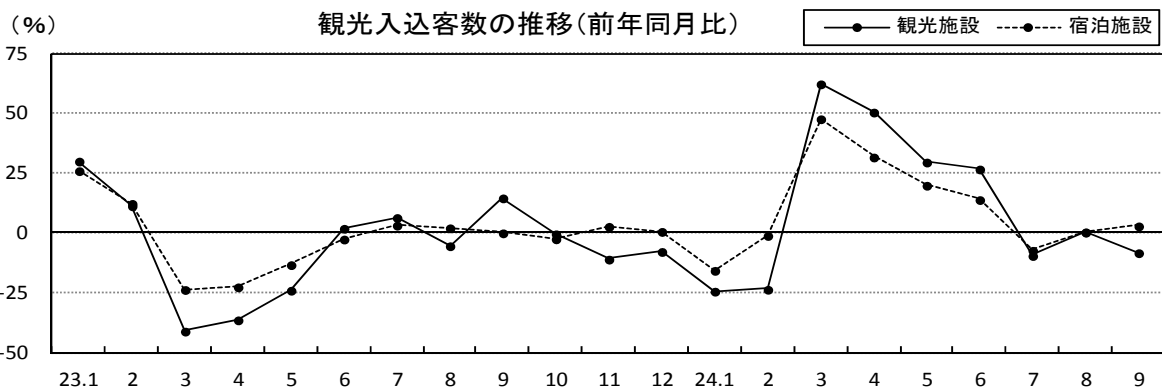
平成24年9月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比8.1%減となり、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は3.1%増となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。観光施設は青森市、八戸市などの施設で減少し、宿泊施設は八戸市、むつ市、十和田湖畔温泉で増加したことによる。

平成24年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,022台で、前年同月比0.7%減となり、13ヶ月ぶりに前年同月を下回った。普通車、小型車が減少したことによる。

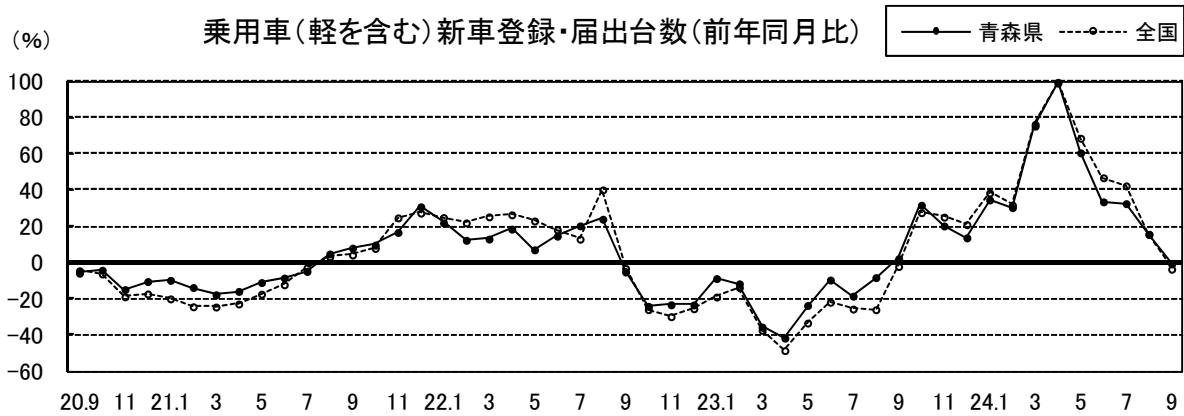


資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。  
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



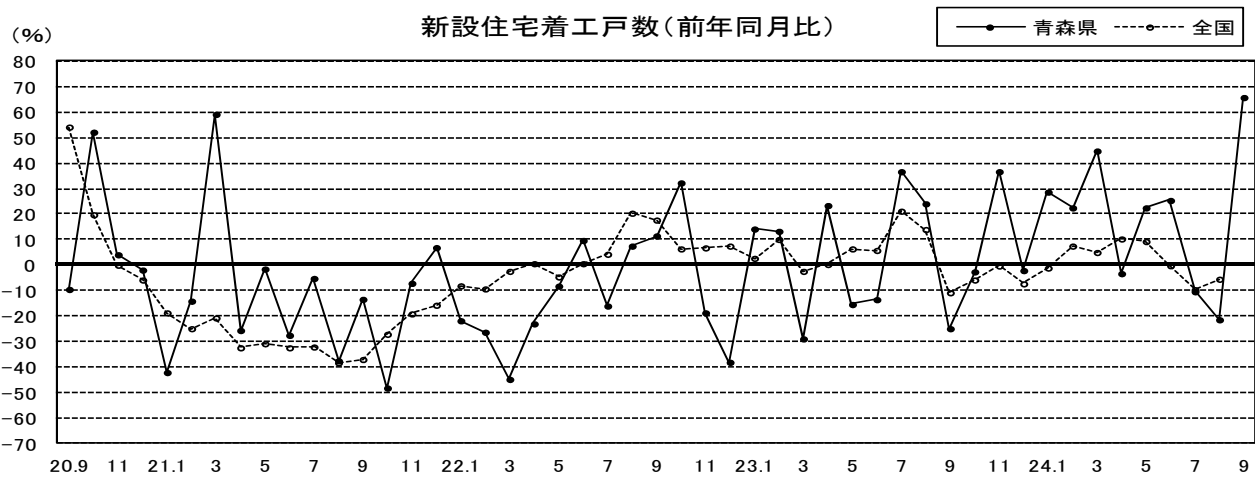
資料：県観光企画課「月例観光統計」 ※観光施設36施設（～23.12は34施設対比）、  
宿泊施設55施設（～23.12は56施設対比）



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

### (2-5) 住宅建設

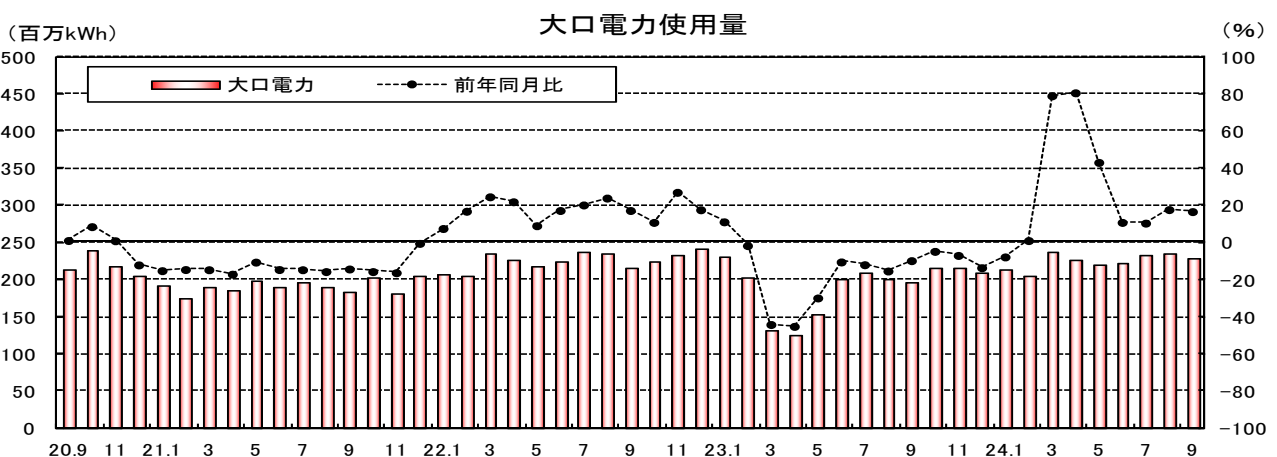
平成24年9月の新設住宅着工戸数は630戸で、前年同月比65.8%増となり、3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。持家、貸家、給与住宅、分譲住宅のすべてが増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

### (2-6) 電力使用量

平成24年9月の大口電力使用量は2億2894万kWhで、前年同月比16.9%増（一昨年同月比5.8%増）となり、8ヶ月連続で前年同月を上回った。製造業を中心に増加したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

### (3) 青森県景気動向指数

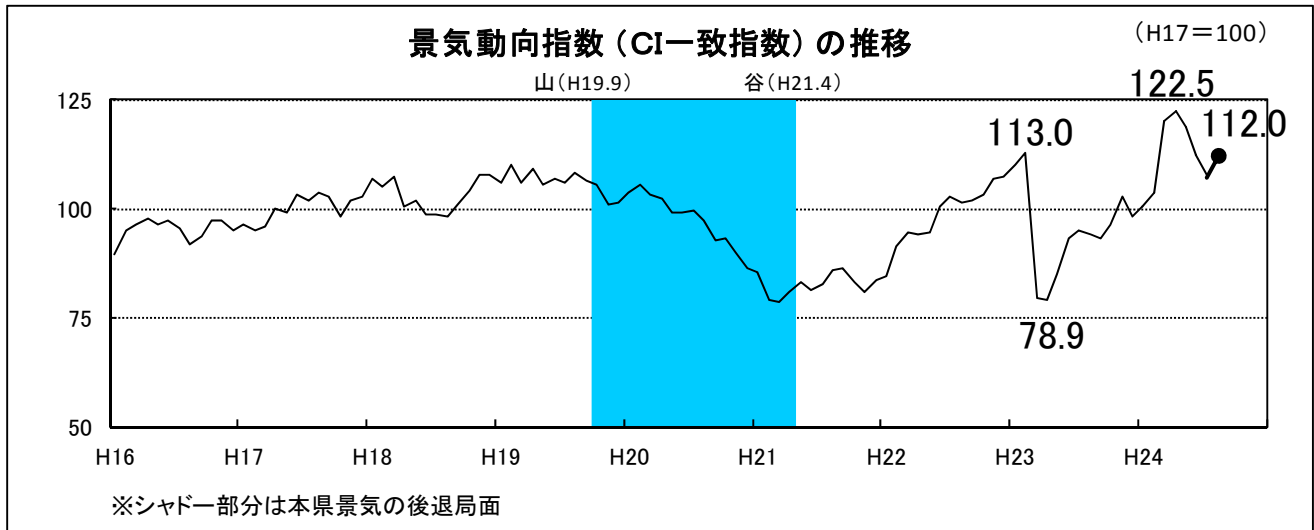
平成24年8月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 117.5、一致指数 112.0、遅行指数 99.3 となった。

先行指数は、前月を 2.6 ポイント下回り、2 か月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 4.8 ポイント上回り、4 か月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 2.3 ポイント下回り、2 か月ぶりに下降した。

8月の一致指数は、生産・消費関連等の指標がプラスになったことから、上昇した。



#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新規求人倍率 (全数)	2.42	2 か月連続	乗用車新車登録届出台数	-4.35	4 か月連続
生産財生産指数	1.00	2 か月連続	新設住宅着工床面積	-1.05	3 か月連続
所定外労働時間指数 (全産業)	0.36	2 か月ぶり	建築着工床面積	-0.99	2 か月連続
企業倒産件数	0.07	2 か月連続	中小企業景況 D I	-0.04	2 か月ぶり
<b>一致系列</b>					
鉱工業生産指数	2.23	4 か月ぶり	輸入通関実績 (八戸港)	-1.28	3 か月連続
大口電力使用量	1.70	2 か月ぶり	有効求人倍率 (全数)	-0.09	3 か月連続
旅行取扱高	1.57	4 か月ぶり			
東北自動車道 I C 利用台数	0.52	3 か月連続			
大型小売店販売額 (既存店)	0.10	5 か月ぶり			
<b>遅行系列</b>					
家計消費支出 (勤労者世帯: 実質)	0.69	2 か月連続	現金給与総額 (全産業)	-2.17	2 か月ぶり
公共工事請負金額	0.59	3 か月連続	りんご消費地市場価格	-0.99	2 か月ぶり
青森市消費者物価指数 (総合)	0.04	5 か月ぶり	常用雇用指数 (全産業)	-0.30	2 か月ぶり
			県内金融機関貸出残高	-0.02	2 か月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数 (D I)		
先行指数	37.5%	(2 か月連続で50%を下回った)
一致指数	28.6%	(13 か月ぶりに50%を下回った)
遅行指数	28.6%	(2 か月ぶりに50%を下回った)



#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

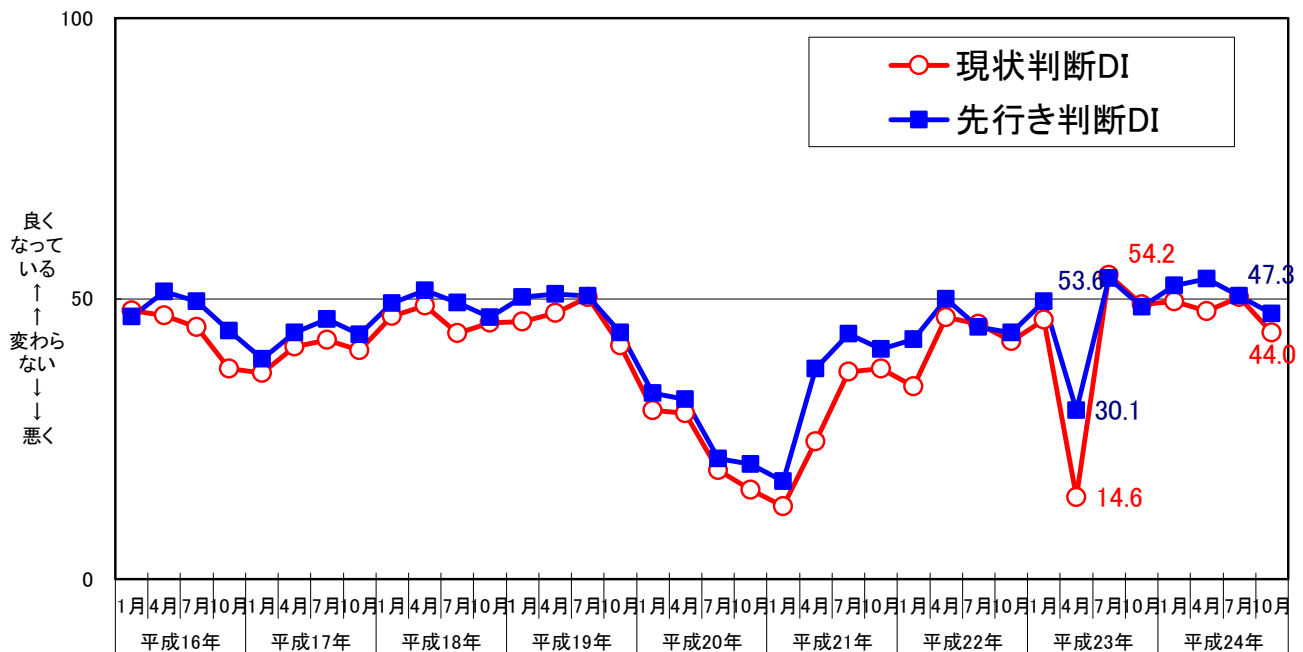
平成24年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月1日～10月16日を調査期間とし、回答率は100%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは44.0で、前期調査を6.3ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは47.3で、前期調査を3.2ポイント下回った。

10月期における景気の現状判断DIは、2期ぶりに横ばいを示す50を下回った。先行き判断DIは、4期ぶりに横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が13.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が14.0ポイント増加、「悪くなっている」が1.0ポイント減少したことにより、全体では6.3ポイント減少の44.0となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。</p>
向	<p>判断理由をみると、旅行者が増えてきた、客数が増加している、という声があった。一方で、夏の猛暑により秋物商品の売れ行きが不調となった、ヨーロッパ向け輸出の減少、中国・韓国などとの国際問題が経済に与える影響を懸念する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青、津軽、県南地区ではポイントが減少し下北地区では増加した。東青、津軽、県南地区では景気の横ばいを示す50を下回った。</p>

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント増加、「やや良くなる」が10.0ポイント減少、「変わらない」が2.0ポイント増加、「やや悪くなる」が9.0ポイント増加、「悪くなる」が2.0ポイント減少したことにより、全体では3.2ポイント減少の47.3となり、景気の横ばいを示す50を4期ぶりに下回った。</p>
向	<p>判断理由を見ると、消費税導入前の駆け込み需要を期待する声や、年末の需要期を迎えることを期待する声があった。一方で、中国向け受注の停滞や、増税・各種値上げに伴う生活防衛意識の高まりを懸念する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青、津軽、県南地区ではポイントが減少し、下北地区では増加した。東青、津軽、県南地区では景気の横ばいを示す50を下回ったが、下北地区では50を上回った。</p>

### ● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 客足も増え、売上も上がってきたようです。（観光名所等・県南）
- 客数が伸びつつある。（スーパー・東青）
- この秋は農産物が豊作で、特にりんごは単価も高いので全体的に活性化している。（経営コンサルタント・津軽）
- 個人で旅行する方が増えて来ている。（都市型ホテル・下北）
  - 一部に公共工事の下支えが見られたものの、夏場の観光は平年並みに止まった模様。小売業界は猛暑
- がマイナスの方向に影響し競争が激化した。全体としては横ばいの様子。（経営コンサルタント・東青）
- 秋物商品が動かない。（食料品製造・津軽）
- 6月末から7月中頃まで衣料品を中心に動きが活発であったが、猛暑の影響で7月後半以降動きが低迷。また、食品にも影響を受けた。9月末から10月に入り温度が下がり、秋物の動きが出てきた。（百貨店・県南）
- 最近のお客様の様子から、特に変わった様子も見られないため。来店客数も昨年並に推移しております。（スーパー・下北）
- △ 残暑が厳しい等の要因もあるが、全体的に消費が冷え込んでいる印象がある。（百貨店・津軽）
- △ 7月から9月にかけて、猛暑や残暑の影響で夏物商材が好調に推移したが、9月下旬から端境期になり、秋物商材の動きが鈍い。また、野菜の相場は安く推移しているが、お客様の購買状況は悪い。（スーパー・県南）
- △ ヨーロッパ向け輸出に加え、中国向けも受注が少ない。世界のどこにも伸びている活発な市場が無いような印象を受ける。（電気機械製造・県南）
- × 消費税増税が現実味を帯びてきてから、消費マインドが下降気味。（衣料専門店・東青）

### ● 3か月後の景気の先行き判断理由

- 消費税増税による駆け込み需要が前倒しの傾向があるため。（住宅建設販売・東青・県南）
- 暑さも一段落し、衣料品の秋物も動き始めている。また、物産展等の大型イベントもあり、集客も見込まれる。（百貨店・津軽）
- 年末に向けて需要期。昨年と比べると落ち着いた感じ。気持ち的に消費に前向きさを感じる。（飲料品製造・県南）
- 大間原発建設工事再開に伴い、雇用も好転してくると思われる。（ガソリンスタンド・下北）
- 1人当たりの買上点数の伸びが見られない。（スーパー・東青）
- 燃料費や各物資の値上げ等で家計の圧迫になると予想され、皆様が節約に入ると思うので、景気の状態は大きくは変わらないと思います。（タクシー・東青）
- 良くなる材料が見当たらないから。一次産業の好調さが地域経済を引っ張るようだといいたいが。（新聞社求人広告・津軽）
- △ 対中国関係の悪化、世界経済低迷の影響が間接的ながら本県企業にも及んでくるものと思われる。（経営コンサルタント・東青）
- △ 中国向けの受注の減少が予想されるため。（電気機械製造・津軽）
- △ 対中関係の悪化により、観光客の減や製品輸出の減など悪影響が出てくるように思う。（紙・パルプ製造業・県南）
- × 単価ダウン傾向が衣料品、暮らしまわり、食品と広くみられる。生活防衛意識が高まっている。（百貨店・東青）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」